



日本文化について 6班 パーバラ(アメリカ)

私は市岡日本語教室で学んでいるパーバラと申します。よろしくお願ひします。

私は現在、日本でキリスト教の宣教活動をしています。無心論者だった私がイエスキリスを信じるようになったのは19歳の頃でした。それから数年たったころ何人かの日本人と出会いました。そのうちの1人に、日本で働くところを紹介してもらいました。

それが16年前のことです。日本に来た初めのうちは、日本の文化にとまどいました。その中の二つを話します。

まず、お寿司屋さんへ行ったときのことです。お寿司屋さんには混んでいました。それなのに、すぐに店員さんがお寿司を持って来ました。それで、私は「早いですね」と言いたかったのに、持っていた辞書をひいて、「早く」と言っていました。すると店員さんが顔を真っ赤にして「すみません」といい、笑顔を一生懸命つくっていました。帰ってから、間違いに気づきました。でも、どうして店員さんは笑顔だったのか理解できませんでした。本当の感情をおもてに出さないから、わかりません。

もう一つは、日本人は「働きバチ」と思ったことです。オハイオ州で知り合った友人がたまたま近所に住んでいました。会いたいときに直ぐに会えると思つて、私は嬉しかった。でも、彼女は仕事で忙しくて、なかなか会えませんでした。リラクセスする時間をつくらないことは理解できず、寂しく思いました。しかし、いいこともあります。家の近

くにはレストラン・銀行・お店もたくさんあり、車なしで生活が出来ます。税金を払うときも、アメリカでは自分でできないとお金を払わなくてはいけません。日本では、無料で市役所の人が計算をしてくれます。道に迷った時は、「どうしましたか?」「May I help you?」と声をかけてくれます。関係のないところへでも連れて行ってくれたりもします。特に大阪の人はフレンドリーだと感じます。

いろいろな問題もありましたが、いまではたくさんのお話を理解しすつかり慣れてしまい、不思議なことに日本の方が住みやすくなっています。もちろん、これからも日本で暮らすつもりでいます。

これでスピーチを終わらせていただきます。ありがとうございました。



運転免許を取りました 2班 岳霞(中国)

皆さん、こんにちは。わたくしは岳霞と申します。中国人です。大阪弁天町で仕事をしています。

今日は日本で車の免許を取ったことについてお話をします。私は中国にいる時は、免許を持っていませんでした。交通ルールはあんまりわかりませんでした。例えば、道路標識と標示の見方とか、交差点で、もし信号機がなかったら、どうしましょう? 私は中国にいた時は、交通ルールを考えることはなかったです。信号機を無視する場合は多いです。中国で横断歩道を渡る時は、いつも車の方が先に通つて、スピードが速いし、非常に危ないです。歩行者は大体待つてから渡ります。だから、最初日本に来て、

横断歩道を渡る時は車が待つてくれます。そのことに一番びっくりしました。あ、日本人はやさしい人が多いと思いました。今思うと、やっぱり交通ルールです。歩行者や自転車、横断している場合は、車は一時停止をして、歩行者や自転車に道を譲らなければなりません。

日本の学校を卒業して、日本で仕事をしようと思うと、車の免許は絶対必要です。だから、自動車学校に行つて、免許を取ることになりました。最初は、すごく大変でした。学科の勉強が非常につらかった。中国と日本の漢字の意味が違いますので大変苦勞しました。初めての50問テストに落ちました、それから毎日教科書を暗記して、後でパソコンを使って、問題を練習しました。1800問の問題集をして、最後には免許センターで100問一発合格することができました。すごく嬉しかったです。

日本に来て一番嬉しかったです。免許を取つて、自発的な交通意識が一番重要だと思いました。なぜなら、みんなが免許を持っているわけではありません。例えば、大阪で環状線が便利だから、半部以上の人は電車と自転車を利用します。だから、交通ルールをしっかりと守るのは人の責任です。運転者だけじゃなくて、大人だけじゃなくて、子供の時からやりましょう。私は日本で半年くらい車を運転して、事故は一度も起こしていません。これからは、安全運転をしたいと思っています。

回りの人に注意しあつて、社会人の責任をもって、家族の責任を持って、自分の安全責任を持って、みんな一緒に交通ルールを守り、すこしでも交通事故が減るようにしていきます。

ご拝聴をいただきました。本当にありがとうございました。



日本とスペインの 文化の違い 5班 スサナ(スペイン)

私はスサナ・ザピコ・ペレズと言います。私はスペイン人ですが今は日本に留学しています。スペインと日本大好きです。二つの国は大分違います。この夏、スペインに帰つて、さらにそう思いました。私としてもラッキーだと思います。いろんな経験をしたおかげでスペインと日本の違いがよく分かりました。初めて日本に来た時驚いたことがたくさんありました。本当に別惑星へ旅行に来たと思えました。今でも、毎日驚くことが多いです。

たとえば、日本で驚いたことというのと、トイレの種類がたくさんあることです。和式と洋式があります。私は知らない所でトイレに行つた時、洋式だったら、幸せです。和式の時は我慢します。そして、ハイテクノロジのトイレもあります。この間、デイカプリオとマドンナが日本に来た時、そのトイレが気に入つて、アメリカに持つて帰りました。彼らたちはそのトイレが大好きでした。私にすればおなじことですが、わたしは日本の事について、いろんなことが好きです。私の考えでは一般的に日本人はとて優しくて丁寧な人たちです。日本はかなり安全な国です。そしてスペインにない日本の小さい事が、スペインに帰つたら懐かしいです。たとえば、日本の畳、日本のお風呂、レストランのおしぼり、京都の漬物、家に入るとき靴を脱ぐ週間、レストランの無料のお水、能舞台、お箸で食べること、日本人の時間を守ること、など。

私が経験した具体的な例をいくつかお話しします。はじめに、畳の話です。外国人が私の家に泊まったときのことです。その人は玄関で靴を脱いで、スリッパに履き替えました。彼らは畳の部屋に入る時スリッパを脱がないで、部屋に入ろうとしました。私はあわててスリッパを脱がせました。彼らは不思議そうでした。私にはその部屋に布団をひくのでスリッパで入ると汚いと分かつていたからです。その前は私も慣れるまでスリッパで何回も入つてしまいましたから。また、スペインでは日本の会社の「スズキ」のニュースが気になりました。日本人の社長が、20年間昼休みの食事にワインを飲んでいた社員に、ワインを飲むことを止めるように命令しました。その社員は食事にはワインを飲むものだと、言い張つたので、社員と社長の争いがずつと続いたので、この言い争いは裁判になつて、現在、禁止になりました。その社員は後で「きっと次は日本の会社は今度はお箸で食べなさい」という規則を作ると言う」と言っていました。言葉だけではなくて、身振りもスペイン人と日本人は違います。食べる時は日本人はこうします。スペイン人はこうします。また、自分の事を言うのにスペイン人はこうします。日本人はこうします。それはとても面白く見えます。ときどき日本人の身振りは私に理解できないことがあります。

将来、スペインへ帰つたら日本で習つた文化と日本のいろいろなことを教えたいです。できれば、スペインから日本までの小さな橋をかけたいです。実は一般のスペイン人は日本の事をよく知りません。大部分の人は中国人、韓国人、台湾人など日本人と同じだと思つています。でもそんなこととはありません。日本人にとつて、よくスペインと聞けばフラメンコ、闘牛、パエリアのイメージが頭に浮かぶようです。でもそんなことだけではありません。地球にあるさまざまな国々で習慣が全然違います。一つの国の中で正しいことが別の国ではそうではないのです。私は違いがあつていいと思います。文化の違い、人種の違いがあれば面白い。いつも相手から新しい事を学べます。私は日本で毎日すごく楽しんでます。